< もくじ >

はじめに 中津市社会福祉協議会 会長 新貝正勝 第2次発展・強化計画検討委員会 委員長 衣笠一茂(大分大学教授)

Arte of other later	
第1章 概	要
第1節	中津市の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第2節	中津市社会福祉協議会の現状・・・・・・・・・・・・・・3
第3節	第2次発展・強化計画策定の趣旨 ・・・・・・・・・ 8
第4節	第2次発展・強化計画の期間 ・・・・・・・・・・・ 8
第5節	第2次発展・強化計画策定の体制 ・・・・・・・・・・ 9
第6節	第2次発展・強化計画策定の経過・・・・・・・・・・・10
第7節	第2次発展・強化計画の位置付け・・・・・・・・・・・11
第2章 現	大と課題
第1節	第1次発展・強化計画の評価 ・・・・・・・・・・・・12
第2節	第2次発展・強化計画に向けて・・・・・・・・・・・・32
第3章 基本	本的な考え方
第1節	基本理念 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
第2節	基本的視点
第4章 実施	幾による市民への寄与
第1節	達成目標~5年後の中津市社協像~・・・・・・・・・・・35
第2節	第2次発展・強化計画策定の体系・・・・・・・・・・・38
第3節	強化項目 I 『総合相談支援体制基盤の確立』・・・・・・・・・4 1
第4節	強化項目Ⅱ『福祉サービスの開発と展開』・・・・・・・・・43
第5節	強化項目Ⅲ『"生きがい"につながる福祉活動と
	ボランティア活動の環境構築』・・・・48
第6節	強化項目Ⅳ『地域福祉ネットワークの実現』・・・・・・・・・5 1
第7節	強化項目Ⅴ『効果的・効率的な経営基盤(組織・人財・財政)の確立』54
第5章 第2	2 次発展・強化計画の進行管理及び評価
第1節	進行管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
第2節	評価方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
] …紙出力ができるようにデータを準備しています。(総務課)
	1次発展・強化計画 行動計画PDCAシート
	1次発展・強化計画 評価シート ■第1次発展・強化計画 評価添付資料
■策!	定の経過(スケジュール表) ■検討委員会名簿
	ロジェクトチーム・ワーキング・サブグループ名簿

5年後の中津市社協像「住民と共にある社協」~福祉の里へ~

少子高齢化が進む地域社会の中で、国の施策は、誰もが住み慣れた地域で住み続けられるような地域社会を目指した地域包括ケアシステムや障害者総合支援法、生活困窮者の自立に向けた施策など、地域の力で支える仕組みづくりへ注力しています。中津市においても、福祉の里づくりを根幹とした「地域住民のつながりによる愛の輪」を目指し諸処の福祉施策に取り組んでいます。

また、昨年起きた九州北部豪雨災害は、改めて地域のつながりの大切さを再認識したところであり、中山間部の過疎地域の生活課題は、今後の中津市全体の課題となりうる状況になりつつあります。このような中、中津市社協では、国や県、市の動向、地域福祉計画や地域福祉活動計画を鑑み、連携、協働しながら中津市社協の地域への役割を果たすべく、福祉の里づくりに向けた第2次発展・強化計画の策定に取り組みました。

第2次計画の策定プロセスは、第1次計画の評価から始まり、ワーキンググループの作業、サブグループでの演習、プロジェクトチーム会議、検討委員会議などの意見を総合的に合わせながら組み立ててきました。そのプロセスを通じて見えてきたことは、第1次計画から続いている中津市社協の「基本的な考え方」と社会の変化に応じて、今後5年間で中津市社協が重点的に取り組むべき「強化項目」をつなぐ意味を持つ「5年後の中津市社協の将来像=5年後の達成目標」を明確にすることが重要であり、それがより確かな中津市社協の存在意義・ミッションとなるということです。

地域社会が変化し、住民の生活福祉課題も変化していく中、地域福祉を推進していく社協としては、中長期的な将来像を明確にしておく必要があります。第1次発展・強化計画でたてた基本理念のキーワードである「つながり」を軸にしながら、第2次計画では「5年後の達成目標」として、一歩前に進み、「住民により近い存在」としての立ち位置にいる社協として「住民と共にある社協」という言葉で表現しました。

「住民と共にある社協」とは、

地域住民の身近に存在し、地域の変化やニーズを敏感にとらえ、その解決に向けて多様な人財の参画を 促し、さまざまな社会資源を活かしながら、安心できる地域社会をつくっていく

ということです。この言葉の中には、「気軽に相談でき、解決につなげられる社協」「地域ニーズに対応できる社協」「地域活動支援のできる社協」「専門性を活かし、地域に還元できる社協」という具体的な将来像を含んでおり、これらを通じて住民に「信頼される社協」として存在していきたいという気持ちが込められています。

具体的な将来像は、第 2 次計画の強化項目内容ともつながっており、また、どの将来像も地域住民の協議体である社協としては当たり前のことです。しかし、改めて基本的な姿勢に立つことにより、地域社会の変化に対応しながらも、翻弄されることなく、「心とこころ」人とひととの"つながり"」が大切にしなければならない基本であることを、役職員・地域住民とが共有しながら、地域のつなぎ役である社協として 5 年間、地域と共に歩んでいきます。

○目標とする5年後の社会福祉協議会像

『住民と共にある社協』~福祉の里へ~

○気軽に相談が出来、解決につなげられる社協 ○専門性を活かし地域に還元できる社協

○その実現へ向けて具体的に取り組むべきこと 中津市社会福祉協議会はここ(強化項目 1~5)を取り組みます。

1. 『総合相談支援体制基盤の確立』





信頼される社協

地域活動の



- ボランティア市民活動の支援 ネットワークづくり
- 多様なネットワークをひろげる ・地域福祉ネットワークの充実

・相談しやすい社協

気軽に相談が出来、

解決につなげられる社協

- 地域ニーズに対応できる社協 ・生活ニーズに沿った事業の展開
- 新たな事業の開発と展開
- 地域ニーズに対応できるサービス展開
- ・障がい子どもを含む一体的なサービスの展開

専門性を活かし

- 地域に還元できる社協
 - ・ 職場環境の充実
- 専門性の高まりによる人材育成ができる。
- の「強化項目」という(水)や(栄 養)により具体的な社協像である

「基本理念」を(土壌)としⅠ~Ⅴ

- (枝葉) を伸ばしながら
- 「住民と共にある社協」~福祉 の里へ~というしっかりとした
- 《幹》となるのです。



Ⅳ.「地域福祉ネットワークの構築」



地域の潜在的な(地域力)を引き出し "つながり合え"地域の中でお互いに支 え合える(共助)の体制を実現します。



日常生活において支援が必要とされる方 へ地域社会で一体的な支援が行える体制 (地域包括ケアシステム) づくりの実現に 向けて、多様なケースに迅速に対応の出来 るワンストップ総合相談支援体制の基盤を 確立します。

『住民と共にある社協 福祉の里へく

『心とこころ 人とひととの "つながり"』

2013/9/5 衣笠教授による ワーキンググループ演習より

《幹》を太くし続け てゆきます!!

11.「福祉サービスの開発と展開」



少子高齢化の進展や核家族化など地域社会 の変容による高齢者・障がい者・子育て世代 等の多様なニーズを地域の福祉課題と捉え、 地域の特性を活かし地域に密着した新たな 福祉サービスの開発と展開を推進します。

Ⅲ.生きがいにつながる福祉活動とボ

ランティア活動の環境構築

一人ひとりの持つ住民の力が最大限に引き 出され(エンパワメント)発揮できる地域 社会の実現に向けて、それぞれが"生きが い"をもって地域の福祉活動やボランティ ア活動のできる環境を構築します。

V、「効果的・効率的な経営基盤

(組織・人財・財政)の確立」

中津市社協の基本的な考え方に基づい た地域福祉事業を推進していくためには 平時・非常時(災害時等)の基盤を強化す る必要があると考え、専門性が発揮できる 人材育成と役職員が一体となった組織展 開、法人としての財政基盤の在り方を明示 し、より効果的で効率性を重視した経営を 確立します。

〈行動目標〉 〈達成目標〉 〈強化項目〉 〈行動計画〉 〈基本的な考え方〉 『総合相談支援体制基盤の確 基本理念 1 個別の生活課題に対応できる専門相談窓口の 弘」 日常生活において支援が必要とされる方へ地域社会で一体的な支援が行える体制(地域包括ケアシステム)づくりの実現に向けて、 A 多様なケースに対応できる 総合的な相談支援体制づくり 2 相談関係事業所などとの連携・強化 住 3 気軽に相談できる受入環境の整備 多様なケースに迅速に対応の出来 心 日常生活を営む上での必要な支援を行う生活 ح ت B ニーズを抱える高齢者や障がい者の生活を地域の実情に沿って支援するサービスの開発 サポート事業の展開 共 2 住民の権利を継続的にサポートする権利擁護 事業の展開 ٥ 3 障がい者の社会生活の基盤づくりと日常生活 『福祉サービスの開発と展開』 のサービスを展開 ろ あ 1 ファミリーサポート事業の推進 る C 子育て世代が交流できる機 会づくりと生活しやすい環境 地域の特性を活かし地域に密着した新たな福祉サービスの開発と展 2 児童館・児童クラブ事業の強化 社 لح 開を推進します。 協 3 子育てサロンの推進 V 地域のニーズに応じた新たな高齢者福祉サー لح D 介護事業などを活かした、 地域に必要とされるサービス の展開 لح 高齢者福祉事業を活かした、児童福祉サービ \mathcal{O} 福 基 1 高齢者・障がい者が交流できる地域行事の企 // E 地域の社会資源を活用した 高齢者・障がい者の"生きが い"づくり 盤 祉 Ⅲ 『"生きがい"につながる福祉 活動とボランティア活動の環境構 集』 2 特技や能力を地域活動で発揮できる取り組み の推進 2 \mathcal{O} 化. な 人ひとりの持つ住民の力が最 ボランティア・市民活動センターの運営協議 一人ひとりの持つ住民のハルッ 大限に引き出され(エンパワメン ト)発揮できる地域社会の実現に 向けて、それぞれが"生きがい" をもって地域の福祉活動やボラン ティア活動のできる環境を構築し が 会設置・運営の確立 F ボランティアをしたいとい う想いをカタチにするための 2 ボランティア活動のきっかけとなる情報発信 IJ の強化 ボランティア市民活動セン ター機能の強化 3 ボランティア人材の発掘につながる企画の充 <u>//</u>_ 4 ボランティア活動の実践につながる研修会の 1 福祉課題の解決につながる専門的な知識を身 つけることの出来る講座の開催・支援 地域の課題解決へ向けてつ 2 地域の課題に気が付き、それを解決できるところとつなげることができる「地域福祉コーディネーター」の養成 なげられる地域の人材 (リーダー) づくり Ⅳ 『地域福祉ネットワークの実現』域の潜在的な力(地域力)を 引き出し"つながり合え"、地域 の中でお互いに支え合える(共 助)の体制を実現します。 3 地域に存在する社会資源(お宝)の発掘と人 材バンクの構築 1 地域住民が集まる場と機会の充実 H 見守り体制や災害対応がで 2 広域(15地区単位)のネットワークと小地域 きる住民参画の地域に向けた 地域福祉ネットワークづくり -クの組織化と連携 3 地域の活動や資源に関する情報収集・発信・ 1 地域社会に対応した組織体制の確立 災害時などの地域ニ 2 災害時に職員が迅速に動くためのマニュアル ズに対応できる組織の体制 づくり 作成 基本的視点 3 各種マニュアルを基に災害対応できる取組み 織 1 インターネット等の環境を整備し、職員間の 」 多様かニーズに対応す 情報発信・受信しやすい機能の充実 るための職員間の連携・ 報共有の強化 るこ 地 地 地 2 職員間の連携を図るための会議等の開催 域 域 域 役員と職員が互いの役割・業務を理解と認識 V 『効果的・効率的な経営基盤 (組織・人財・財政)の確立』 中津市社協の基本的な考え方に K 住民の代表である役員 を深める取り組みの実施 と職員が一体的に事業運営 できる仕組みづくり の \mathcal{O} 0 中津市社協の基本的な考注と 基づいた地域福祉事業を推進し災害 にくため、主要を選化する必ずを 時等)の基盤を選化する必ずを お育成と役職員が一体料となった組 物育成と役職員が一体料となった組 があれた、としての財政集的である。 を有り方を開大し、より確立しま を関していました。 終 2 役員と職員の協働による事業の推進 営 1 職員のメンタルケアの充実 材育成 関 盤 **地域に信頼される職員** 場 強 を目指した職場環境の改善 2 職員のスキルに応じたマネジメントができる 評価体制の整備(職員の資質向上を図る) 係 化 づ 関すること M 福祉の専門職集団として意識を醸成するための研 1 スキルアップにつながる専門的な研修の開催 修体系の確立 2 職員としての基礎力向上を目的とした研修の IJ IJ N 地域福祉事業に有効活 財 1 社協会員の拡充 用できる自主財源を確保す 政に関 るために多様な取り組みの 実施 2 地域環元に向けた収益の見込める新たな取り すること 〇 地域に密着した地域福 迅速かつ的確な判断ができる「収支管理体 祉事業運営方針と収支管理 体制とが一体となった経営 制」の確立 体制とが一体制の確立 2 責任ある経営方針が打ち出せる体制の強化